

|          |                 |          |          |  |
|----------|-----------------|----------|----------|--|
| マルチメディア論 |                 | 講義       | 教授 白井 雅人 |  |
| 科目カテゴリー  | 経営・経済コースの専門選択科目 | 科目ナンバリング | 23002218 |  |

### 1. 授業のねらい・概要

現在コンピュータ上で扱われる文字や画像・映像・音声などは、別個に生み出されてきたさまざまなメディアをルーツとする。それらのメディアは、誕生にあたって現在とはまったく異なるかたちをとっていたり、別の用途に使われていたり、あるいはいつしか消えていったりしながら変遷してきた。この講義では、こうしたメディアが誕生した当時の文化や環境などの時代背景をふまえたうえで、その後の展開から現在までの流れを概観する。こうした多様な展開を分析することによって、現代におけるデジタルメディアの持つ特性と意義を探る。

### 2. 授業の進め方

基本的に講義形式で進め、関連するテーマについて記述演習課題を行う。

### 3. 授業計画

|                       |                           |
|-----------------------|---------------------------|
| 1. メディアとその意味          | 9. 通信メディア(3)：無線とラジオ       |
| 2. テキストメディア(1)：ことば    | 10. 通信メディア(4)：テレビ         |
| 3. テキストメディア(2)：書物と印刷術 | 11. デジタルメディア(1)：コンピュータの誕生 |
| 4. 画像メディア：写真          | 12. デジタルメディア(2)：コンピュータの発展 |
| 5. 音響メディア：蓄音機とレコード・CD | 13. デジタルメディア(3)：インターネット   |
| 6. 映像メディア：映画          | 14. ソーシャルメディア             |
| 7. 通信メディア(1)：電信       | 15. AI                    |
| 8. 通信メディア(2)：電話       |                           |

### 4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各回の授業テーマについて配布資料やノートをもとに復習し、課題を次回講義までに完成させ提出すること。またインターネットや文献などを利用して調べ、さらに理解を深めておくこと。この準備学修には2時間程度が必要である。

### 5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の演習課題について、その都度添削して返却する。

### 6. 授業における学修の到達目標

それぞれの時代、それぞれの社会の中でメディアがどのように生み出されてきたのかを説明することができる。とくにメディアの機能と関わりの深い技術的側面について理解し説明できるようになる。現代のメディアが本来的に持っている多様な可能性について十分に理解した上で説明することができる。

### 7. 成績評価の方法・基準

授業への取組み姿勢（20%）、授業内課題（50%）、および期末試験（30%）による。

### 8. テキスト・参考文献

毎回講義内容のレジュメを資料として配布する。また必要に応じて参考文献等を紹介する。

### 9. 受講上の留意事項

映像等の提示が多くなるが、単にそれらを眺めて終わるのではなく、分析的な目で見てその背景や特質を理解するように努めること。概要や感想などをその都度メモしておくこと。

**10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無**  
該当しない。

**11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連**  
上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。